

## 新建研究集会 2024 分科会「生活と福祉」

### 地域にある保育園 ～どこまでごちゃまぜ？～

東京支部 象地域設計 さとうみき

「建替えるのかー」「保育園としてだけ建替えてよいのかな」と思うことがあります。そう思うのは、（隠れ待機児童は多いが）定員割れも起きている現状や、少子化の改善が想像できない状況が続いているからです。また、建設費高騰、地球環境への負荷も心に引っ掛かっています。

#### ■ どうしたいかではなく、なぜなのかを聞くように

だったら象さんに話を聞いた方がいい、相談にのってもらえるよ、と紹介を受け、出掛けていく訳ですから、何か役に立ちたいし、のっけから消極的な表現が目立たないようにしていますが、「建替えよう、やろうやろう」とはなりません。

建替えを前提に相談を受ける場合も、なぜ建て替えを考えているのか、既存建物を使い続ける場合も検討しよう、新園舎になったらバラ色の保育が始まるわけではない、この機会に保育を見つめよう・高めよう・育もう、と対話をしています。

保育園からは、私たちの保育・質・理念をどう引き継いで発展させればよいか、と模索しているという話をよく聞きます。

#### ■ よくよく考えてみたらこれまでも

新園舎の設計では、長く使い続けられるように、耐震性向上、設備ピットの有無、暮らしの変化に対応できる構造計画を重視してきました。保育園以外の用途にも発展的に使えるように。

そして多くの保育園が、いわゆる保育園の機能・役割にとどまらず自由に展開する様子を目の当たりにしてきました。

私たちが関わらせてもらう保育園は、戦後間もなくからその地域でやってきた園、地域の要望でできた無認可保育園が園舎建て替えを機に就学前までの保育に発展する等、まさに地域を支え、地域に支えられる保育園です。

制度化される前から、産後すぐからの保育に取り組み、障害のあるなしに関わらず保育園で暮らし、地域の要望を踏まえて、一時保育や親子ひろば事業に取り組んできている保育園が多く、その筋金入りのスタンスに多くを学んできました。

#### ■ ザ・地域にある保育園 の紹介

ASA 保育園：共同住宅+保育園 道路に面した共同住宅 1・2 階は店舗や事務所を経て、一時保育、親子ひろば、高齢者への配食、耐震補強に合わせた一歳児室定員増改修。

MIT 保育園：園内に一時保育コーナー(1056 人/2023 年度)、保育園の向かいの空き商店を職員用スペースと親子ひろば(子 3844 人・親 3752 人/2023 年度)に。2 つの姉妹園でも同じ考えのもとに別玄関のある場を設置。3 園とも毎日開園。

KOB 保育園：都営住宅の耐震補強に合わせて、親子ひろばスペースと相談室を増築。市の発達支援児に関わりが深く、保護者の KOB 会では小学生になってからの姿を交流。

KOU 保育園：図書に囲まれた打合せ室が夕方にはピアノ教室に。

KUR 保育園：夕方の美術教室。地域からの出前お話し会(冬にはろうそくを灯して)。

SII 保育園：夕方になったら小学生が5才とランチルームに集まってくる夜間学童。補助金がなくなり閉鎖する様子。

## ■他にも

都営住宅建て替えに伴う、都有地活用による地域福祉インフラ整備事業により都有地を借り受け、事業者みずから施設を整備、運営するという例も、2園あります。保育・障害・高齢が隣接する SEI 保育園では、3者の会合を定期的に持ち続け、合同でお便りも出しています。地域の親子に向けた大型絵本読み聞かせの会に障害の方々を招待し、みんなで楽しめた保育園の企画、高齢者との交流も企画されています。また高齢の広い会議室は、園の保護者による太鼓の練習場になっているようです。

また、築20年越えの200人規模のKOG保育園では、今後の定員減を見据えて、市の施策子ども子育て若者プランに沿って市への働きかけを始めています。これまでの学童の実績を踏まえて、中・高校生の居場所や団地の食堂など広く捉えています。

公立園の民間委託を受けて休日保育も行っているKIN保育園は、隣のマンションの1階で乳児の定員増に応じて分園を行ってきました。最近商店街の空き店舗に進出して学童をやりたい、その時は相談にのってね、とされています。

## ■最近の動きについて

保育園は親と子が育つ絶好の場だと思うので「誰でも通園」のように行きたいなら理由なしにみんな行けるという考えはよいと思います。一方で保育園が必要急務な親または子に十分に届いているのだろうか、子どもは社会が育てるという(9年前子ども子育て支援制度導入時に死守した)保育の公的責任があいまいにさせられないか危惧しています。

また私たちの地域、葛飾区では送迎保育ステーションや、隣だった小学校の建替えに合わせて1階の一部に保育園が入る計画などがあり、どう捉えたらよいのか悩みます。親の要望に応じてといっても地域をすっ飛ばしてサービスに偏ったり、見当違いな「小一の壁」対策、狭い意味での教育(一斉指導)のように思います。これは、福祉なのでしょうか。

## ■変わらず と より一層

一つの園舎に何を盛り込んでいくか、そして建物・敷地内で完結せずに、地域と相互乗り入れて、なぜそうしたいかをつないでいき、自分たちのやりたい保育、子ども大人たちとの関係を作り上げていく。地域、福祉という視点を忘れず、誰のための何のための建築創造か、を考えていきたいと思います。

建替えた方がよい、というより、建替える以外に他にないというところまで追求して進めていきます。